

INFORMATION Book

中央公民館
図書室からの
お知らせです

ほん 大好き



中央公民館図書室 ☎42局7200番

今月新しく入りました。

※ 11月の新刊は、2日（木）からの貸出となります。

📖 一般の本

季語の博物誌（作＝工藤力男）
僕が殺した人と僕を殺した人（作＝東山彰良）
歴史はバーで作られる（作＝鯨 統一郎）

📖 子どもの本

きのこのふしぎえほん（作＝山本亜貴子）
ぱんつ さいこう！（作＝ジャレット・チャップマン）
ロケット発射場の一日（作＝いわた慎二郎）

中でもこの本が **オススメ** です。



月の満ち欠け

作＝佐藤正午
あたしは、月のように死んで、生まれ変わる——目の前にいる、この七歳の娘がいまは亡き我が子だということか？三人の男と一人の少女の、三十余年におよぶ人生、その過ぎし日々が交錯し、幾重にも織り込まれてゆく。さまざまの魂の物語は戦慄と落涙、衝撃のラストへ。第157回直木賞受賞作品。



ブタのドーナツ屋さん

作＝谷口智則
ドジでおっちょこちょいのブタのドーナツ屋さん。お店はいつもヒマなのですが、ある日注文の電話が…。物語が進むにつれて、探し絵をしたり、数を数えたり。いろいろな要素が詰まった、楽しい絵本です。



桜風堂ものがたり

作＝村山早紀
おじいちゃんやおばあちゃんや子どものお話。えりちゃんの生まれた町には炭鉱があり、おとうさんも炭鉱で働いていた。3年生のとき、けいこちゃんが、となりの席になり、授業中にピンクの定規を貸すようになった。おじいちゃんやおばあちゃんや子どものお話。えりちゃんの生まれた町には炭鉱があり、おとうさんも炭鉱で働いていた。3年生のとき、けいこちゃんが、となりの席になり、授業中にピンクの定規を貸すようになった。



ボタ山であそんだころ

作＝石川えりこ
おじいちゃんやおばあちゃんや子どものお話。えりちゃんの生まれた町には炭鉱があり、おとうさんも炭鉱で働いていた。3年生のとき、けいこちゃんが、となりの席になり、授業中にピンクの定規を貸すようになった。おじいちゃんやおばあちゃんや子どものお話。えりちゃんの生まれた町には炭鉱があり、おとうさんも炭鉱で働いていた。3年生のとき、けいこちゃんが、となりの席になり、授業中にピンクの定規を貸すようになった。

本は知識を深めるだけでなく、人と人とのつながりを広げてくれます。新たな本との出会いは新たな人との出会いの始まり。広がる本ならではの、新たな本との出会いの場として、毎月おすすめの本を2冊紹介します。今月の紹介者は由衛久子さんです。

広がる本 だ な



久原外来師長の

調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです



「ピンクリボン運動」という言葉を耳にしますが、具体的には
どういうことですか？。(42歳・女性)



「ピンクリボン運動」とは

乳がんについて正しい知識を多くの人に知っていただき、その結果、乳がんから引き起こされる悲しみから一人でも多くの人を守る活動です。

ご存じですか？

アメリカでは、フォード・レーガン元大統領夫人が襟元にピンクリボンバッジをつけ、自ら乳がん体験を公表しました。アメリカは、国を挙げて乳がん死を減らす運動を始めました。多くの団体が、様々な形でピンクリボン運動に取り組んでいます。このような運動の結果、アメリカ、ヨーロッパでは、90年代から徐々に減少に転じています。日本では、年々、乳がんになる女性の割合が増加し、現

在では「12人に1人」が乳がんになると言われています。そして、乳がんによる死亡者数も年々増加し、2015年は1万3千584人、2016年は、1万4千15人、働き盛り、子育て真っ最中の40〜50歳代にかけてでは、女性のがんの第1位となっています。残念ながら、乳がんの予防法はありません。

乳がん検診を受ける、早期発見の大切さを伝えるピンクリボンは、「気づき」と「行動」の世界共通のシンボルマークです。

乳がんの検診は どこで受ければいいのか？

検診受診向上のために、女性が検診を受けやすくなるような環境整備に向けて働きかけていくことが重要と考えます。乳がん検診には、町が行う集団検診

と病院で受ける施設検診とがあります。検査内容については、マンモグラフィと超音波（エコー）検査、触診があります。

「マンモグラフィ」

マンモグラフィは、乳房用のレントゲン検査です。

透明の圧迫板で乳房をはさみ、薄く伸ばして撮影します。検査時は少し痛みを生じることがありますが、痛いときは我慢しないで検査技師に伝えるようにしましょう。

「超音波（エコー）検査」

超音波検査では、乳腺は白っぽく、がんは黒く映し出され、乳がんの検出に優れています。

積極的な検診を

乳がん検診を受けて、病気が見つかったりすると、どこで治療をしたら良いか？など検診をためらったりしていませんか？大事なことは、検診を積極的に受けることです。早期発見であれば、90%以上が治るとされています。積極的に検診を受けましょう。



「アドバイザー」

久原聡子さん・くばらあきこ・平成5年近畿大学付属福岡高等学校看護科看護専攻科卒業。平成9年鞍手町立病院勤務。平成28年4月より、くらで病院 外来師長。

「ピンクリボン」は世界共通のシンボルマークです。
ピンクリボン運動は、女性の8人に1人が乳がんになる、乳がん先進国のアメリカで生まれました。

